研究報告）ヘアショー2024「君たちはどう生きるか」
－学生の挑戦と学び－

（ Hair Show 2024 “How Do You Live?” -The Student’s Challenges and Learning - ）

古川 千夏　ヘアショー2024 チーム　阿部 高広

抄 録

日本で初めての美容教育のための短期大学として開学した山野美容芸術短期大学で、1998 年以降約 20 年間にわたり行われてきた学生主体のヘアショーは、新型コロナウイルスの影響により対面での実施は一時休止となったが、一昨年から学生達の意向により再開 1) した。その意思を引き継ぎ、本年度もヘアショーの開催を企画した。「短大らしく何を伝え、問いかけるか」という課題解決に向けた学生のヘアショーに対する取り組みと実施効果をまとめた。

キーワード：山野美容芸術短期大学　ヘアショー　ヘアメイク　美容　課外活動

I.　はじめに

山野学苑は、1934 年に本学創設者である山野愛子が東京都日本橋蛎殻町に開設した「山野美容講習所」を起源とし、その後「学校法人山野学苑」の設立を経て、1977 年の専修学校認可に伴い、山野美容専門学校を開設した。

さらに 1992 年、山野愛子・山野美容専門学校初代校長が抱いた「美容教育を高等教育に」という願いに基づき、幅広い教養・知性に裏づけられた質的水準の高い美容理論・技術を持った美容師の養成を目的とした山野美容芸術短期大学を設置した。山野美容芸術短期大学は、日本初の美容教育のための短期大学である。当初は「美容芸術学科」1 学科で開学したのち、1996 年に「美容保健学科」、1999 年に「美容福祉学科」、2004 年に「専攻科芸術専攻」および「専攻科社会福祉専攻」を設置した。2011 年には、既存の 3 学科を統合した美容総合学科（美容デザイン専攻、総合エステティック専攻、国際美容コミュニケーション専攻）に改組した。2) 2021 年には、2018 年 11 月文部科学省の「2040 年に向けた高等教育のグランドデザインの答申」を踏まえた上で、建学の精神である「美道」をよりアカデミックな観点で再構築し、「美道に基づく人間力の育成」を軸とした専攻統合の美容総合学科（美容師免許取得コース、インナービューティーコース、グローバルキャリア・ビューティービジネスコース）に改組した。建学の精神である髪、顔、装い、精神美、健康美の五大原則に基づく「美道」の追求、実践に基づき「美しく生きる力」を形成することを教育目標としている。学生にとって、課外活動は成長を促す重要な機会である。3) ヘアショーは、本学のディプロマポリシーである〈知識・技能〉〈主体的行動力〉〈課題解決能力〉〈多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力〉〈日本の伝統と文化を理解し、美意識を備えて行動できる能力〉を複合して捉え、活動していくことで、それぞれの力の成長に寄与する実践的な課外活動の一つであると考える。

今回のヘアショーでは専門学校との違いを意識し、ディプロマポリシーの中でも特に〈課題解決能力〉〈多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力〉といった教養に関する能力を高めることに重点を置いた。

また、ヘアショーの取り組みを通して、美容の短大生として得た能力や現代社会の課題と向き合うこと、そしてその課題を伝えることの難しさをどのような過程を通して学んだのかについて、検討した。

II.　ヘアショーが始まった経緯

ヘアショーとは、美容業界では「美容師の技術披露の場」、キーワードは「非日常空間」「アート」「こだわりの衣装」「トレンド」4) または「美容師のクリエイティブ活動の一つ」として「美容師×アート」といった捉え方 5) がされている。観客の前でのテーマに沿った技術披露や完成したモデルのヘアスタイル・メイク衣装・ウォーキングなどで目的に合わせた内容を観客に伝える活動である。目的としては、ファッションショーのように自社のブランド力を打ち出すためや、リクルートの際に各社の特徴を知る機会、またはアジアに日本の美容の技術、ブランド力を

Chinatsu Furukawa
（ヘアショー2024 プロデューサー、2024 年度 2 年生）
Takahiro Abe（指導教員）
山野美容芸術短期大学
連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鑓水 530

発信する[6]ためや、理美容師の担い手が減少する中で若い世代に夢とチャレンジを与えること[7]など、行われるイベントにより様々である。美容学校においても習得した技術を披露する場として文化祭やオープンキャンパス、2 年間の集大成として卒業発表などで行われることが多い。

山野美容芸術短期大学のヘアショーは有志学生が集まり、その学生たちが主体で行っている課外活動である。リーダーを中心に技術者とモデルが一つのチームとなり、複数のチームをプロデューサーを中心とした運営メンバー（サブプロデューサー、照明、音響、モデル出し）が一つのヘアショーとなるようにまとめて作り上げてきた。山野美容芸術短期大学のヘアショーの始まりは、1992 年の開学から 6 年後の 1998 年に学苑祭で行われた「ザ・山野流 七祭∞」である。このヘアショーの特長は、学外で自主運営のヘアショーを行っていた学生たちが学生生活の充実を目的として創作活動を発表する場が欲しいと考え、全学生で当時の教職員とともに実施に向けて取り組み、学苑祭の中で発表したことであった。開催には、当時の学生の学校に対する熱意と美容技術に関する創作意欲があったこと、また教職員がこれを理解し、環境を整え、学生に寄り添う姿勢で見守ったことで実施に至った。これ以降、幹部を中心とした有志の活動として、活動方法を代々受け継ぎながら学苑祭の他に新入生歓迎の際や卒業生に向けた謝恩会での実施など、創作意欲と学年を超えた関わりの中で、本科の学びだけでは得られない経験と学生時代ならでは自由な発想及び熱意を表現する場として 2019 年まで続いてきた。これまでのヘアショー実施年度とテーマは、右の表のとおりである。

2019 年度卒業式ヘアショーは、新型コロナウイルスによる影響を受け、学校として中止の判断がなされた。その後の 2020 年度前期は授業も急遽全面オンラインとなり、課外活動を行うことが困難でヘアショーも活動の許可が得られなかった。しかし、2020 年度後期の一部授業における対面授業と一部課外活動の再開を受け、学生からヘアショー実施の強い要望を受けたことにより、2021 年度学苑祭でのコロナ禍におけるヘアショー実施に向けてプロジェクトが動き出した。

実施年度	イベント	テーマ
1998 年度	学苑祭	ザ・山野流　七祭∞
1999 年度	新入生歓迎	GLOBE（地球）
1999 年度	学苑祭	〈不明〉
2000 年度	新入生歓迎？	〈不明〉
2000 年度	学苑祭	彩-いろどり-
2001 年度	新入生歓迎	美容福祉学科
2001 年度	新入生歓迎	FEEL　(芸保)
2001 年度	学苑祭	Beauty Addiction
2001 年度	卒業式	〈不明〉
2002 年度	新入生歓迎	First Stage（福祉）
2002 年度	新入生歓迎	02　“覚醒”（芸保）
2002 年度	学苑祭	THIS IS THE WAY WE UNITE
2002 年度	卒業式	軌跡
2003 年度	新入生歓迎	feeling
2003 年度	学苑祭	〈不明〉
2003 年度	卒業式	〈不明〉
2004 年度	新入生歓迎	RIZE
2004 年度	学苑祭	Carnival
2004 年度	卒業式	春夏秋冬
2005 年度	新入生歓迎	MY WAY
2005 年度	学苑祭	STATEMENT
2005 年度	卒業式	Colors
2006 年度	新入生歓迎	Emotion
2006 年度	学苑祭	Jubilee
2006 年度	卒業式	ORIGINAL
2007 年度	新入生歓迎	STYLE
2007 年度	学苑祭	GRITTER
2007 年度	卒業式	〈不明〉
2008 年度	新入生歓迎	BOOK
2008 年度	学苑祭	TRACK　(軌跡)
2008 年度	卒業式	TIME
2009 年度	新入生歓迎	ONE
2009 年度	学苑祭	EQUALITY
2009 年度	卒業式	PRESENT
2010 年度	新入生歓迎	It's a small world
2010 年度	学苑祭	BON!!!!!
2010 年度	卒業式	nostalgic
2011 年度	新入生歓迎	THE BEGINNIG
2011 年度	学苑祭	〈不明〉
2011 年度	卒業式	〈不明〉
2012 年度	新入生歓迎	mode break
2012 年度	学苑祭	SOTHIS
2012 年度	卒業式	jackass

2013 年度	新入生歓迎	HANABI
2013 年度	学苑祭	Jewel
2013 年度	卒業式	百花斉放
2014 年度	新入生歓迎	my water
2014 年度	学苑祭	Nest Generation
2014 年度	卒業式	〈不明〉
2015 年度	新入生歓迎	ゼロルーテイジ ～はじまりの物語～
2015 年度	学苑祭	NO THEME
2015 年度	卒業式	〈不明〉
2016 年度	新入生歓迎	〈不明〉
2016 年度	学苑祭	柵（しがらみ）
2016 年度	卒業式	挑戦
2017 年度	新入生歓迎	挑戦〈再演〉
2017 年度	学苑祭	革命
2017 年度	卒業式	fiore
2018 年度	新入生歓迎	fiore〈再演〉
2018 年度	学苑祭	DREAM
2018 年度	卒業式	時空旅行
2019 年度	新入生歓迎	時空旅行〈再演〉
2019 年度	学苑祭	liberta～個性を形に～
2019 年度	卒業式	コロナにより中止
2021 年度	学苑祭 （動画作成）	Hello New World
2022 年度	学苑祭	Rainbow
2023 年度	学苑祭	糸

III. ヘアショー2024

1）ヘアショー2024 のはじまりとテーマ決め

昨年、先輩方が開催されたヘアショーを受け継ぎ、次の世代に繋げること、1、2 年生の技術交流の場を作ること、技術力の向上とそれを発表する場を作ること、舞台を作り上げるためにチームとして連携して動く力を養うこと、などの動機から、2024 年もヘアショーを企画することに至った。

そこで初めに取りかかったのが、テーマ決めであった。去年の先輩方が「糸」というテーマで人と人との繋がりを示すステージを創り上げていたため、その想いを受け継ぎ、今年も短大らしく何かメッセージをこめて、観客に問いかけるショーを制作しようという考えのもと、テーマ決めを始めた。その中で出た案が「世界を取り巻く環境問題」であった。私たちの専門分野である美容を通して、一見美容とは関係のない「環境問題」を取り扱うことで、全てのことは繋がっているということ、美容で世界を変えられるという美容の可能性を提唱するという意味でも、このテーマは最適だと考えた。また、このショーでは環境問題はこう解決していくという決めつけではなく、どのような環境問題があるのか、そのまま放置するとどうなるのか、本来の世界がどれだけ美しいのか、ということを作品として見せた上で観客自身に問題を投げかけ、どう行動していくのか考えさせることを狙い、「君たちはどう生きるか」という題名に決まった。

そこからテーマをさらに深掘りして細分化し、ショーとして成り立つ構成を考え始め、環境問題の中でもよりイメージしやすい「空」「山」「海」に焦点を当てることにした。また、環境問題とは少し異なるが、現代社会で AI が様々な所に関わってきており、人間の「心」「感情」の価値観が少しずつ変化しているように日頃から感じていた。そのため、ぜひとも人の「本来の感情」の大切さを問いかけたく「感情」というコンセプトも追加し、「空」「山」「海」「感情」という 4 つのコンセプトにメッセージをこめてヘアショーを作ることになった。

テーマとコンセプトが決定し、ヘアショー開催の許可がおりたことで、本格的に制作が進み始めた。有志での参加を希望してくれた多くの学生には、説明会の中で、コンセプト、ショーを通して伝えたいこと、役割、ルールを説明し、チーム割りをしたのち、各々がモデルのイメージ制作に取りかかった。

2）各モデルのコンセプト

次に、完成した作品の説明を通して、それぞれのテーマにこめられたメッセージを解説する。前述の通り、観客に考えさせる作品を作るため、「このまま環境破壊が進んだ果ての姿」としての悪い印象の作品と、「自然環境を守り抜いた先の本来の美しい世界」としての良い印象の作品の二極を基本として、作品を定めた。

初めに「空」について解説する。「空」は「過去、現在、未来」といった時代の移り変わりに焦点をおき、そこから、それぞれ善悪の２つに分けて制作したので、６体のモデルを用いて創られた。

初めに「過去」では、第二次世界大戦後の経済発展の裏にあった深刻な「大気汚染」と、まだそれが広がっていない郊外の美しい「晴天」をコンセプトにした。「大気汚染」のモデルは、ヘア全体を針金で作ったドームで覆い、その周りに黒煙を見立てたワタを取り付け、メイクでも黒や赤など工業廃棄物にある色を塗り広げることで汚い空気が充満しているイメージを

表現した。「晴天」のモデルは、全体的に明るい印象になる色を採用し、ヘアメイク全体に大きく虹をかけることで、晴れた空の鮮やかさを表現した。また、顔周りを一昔前に流行ったマリリン・モンローのようなウェーブスタイルにすることで、過去であることを表現した。

次に「現代」では、特に問題視されて私たちの生活を脅かす「異常気象」と日本の風物詩として現代まで大切にされている美しい「花火」をコンセプトにした。「異常気象」では、額に大きくかかった雨雲から、雨が涙のように流れることで災害と悲しみを同時に表現した。「花火」のモデルは、一目見て花火とわかるヘアの装飾がポイントである。毛髪を広げて色をつけた花火をいくつも重ね、また、漆黒のドレスにキラキラとした装飾をつけることで闇夜に浮ぶ鮮やかな花火を表現した。メイクも頬に花火を描き、全体的にキラキラとした印象でまとめ、華やかに仕上げた。

最後に「未来」では、今、やんわりと問題が広がっていて、人体への健康被害にも影響を及ぼす「黄砂」と環境問題を改善し守り抜いた世界の先にある美しい「星空」をコンセプトにした。「黄砂」のモデルは、毛先の渦巻いたヘアスタイルと、長く大きなチュールを用いた大胆な衣装で＜風＞を表現し、黒く汚い黄色で汚染された状態を示している。最後に「星空」のモデルは、全体的にキラキラとした衣装やラメを多く施したメイク、ヘアの装飾で、美しく輝く星空をイメージした。また、ヘア全体にザクザクと切り込みを入れ、立ち並んだビルや未来感を表現した。

空のモデルはこのように、全体的に上品なデザインを保ったまま、善悪をはっきりと区切り、時代の違いを見せられるよう試行錯誤し制作した。また、ランウェイのようなステージにすることで、ショーの始まりとして観客を惹きつけ、この後に起こることについてより興味を持ってもらえるようにした。ランウェイでは観客の目がたった一人のモデルに集中するので、360 度どこから見ても美しくなければならない。そのため歩き方を徹底してトレーニングし、かっこよく美しくステージを作り上げた。そして全体をドレスやヒールなどの上品な印象にまとめる事で、チームとしての統一感や空の優雅さ艶やかさを表現した。

次に「山」について解説する。美しい自然と荒れた自然は常にかけ離れた場所に存在しているように思えたので、善悪でコンセプトを大きく変えて制作した。美しい自然は、日本ならではの「四季」をモチーフに「春夏秋冬」それぞれのモデルとして考え、荒れてい

る自然は「不法投棄」「砂漠化」「山火事」とどれも美しい自然を破壊していくものをイメージして構成することにした。

初めに「四季」について解説する。「四季」は日本文化が創り上げられる上で最も大きく影響を及ぼし、常に日本に彩りを与えてきたものだ。そのため、全てのモデルに着物の要素を取り入れ、統一感を出しながら、日本独自の四季の美しさを表現した。その中でも「春」は特に、暖かく可愛らしい世界観を全身で表現した。豪華な振袖でボリュームを出し、ヘア全体に花を施すことで、花たちが一斉に咲き誇っている様子を表現している。「夏」は青々と生い茂る夏の自然をイメージし、ヘア、メイクに渡り草木を描き、頭から足元まで蔓をつなげることで、全身で生き生きとした夏の山を表現している。「秋」も夏と同様にメイク、ヘア、着物の柄の全てに紅葉を施し、一目見て日本の美しい秋だと理解するようなモデルになっている。「冬」は対照的に、冬を直接比喩するものでまとめるのではなく、モデル全体の雰囲気と一つ一つのパーツで「冬」の景色を表した。また、普通に結ぶのでなく下に垂れ下げた純白の帯も特徴である。

ステージの上で四季を巡らせ、それぞれが引き立てあって、美しい自然が作り上げられる素晴らしさを表現した。

次に「不法投棄」であるが、山にどのようなゴミがあり、それが自然にどのような悪影響を及ぼすのかを意識し、制作した。ヘアや衣装に、割れた CD や針金などを付け、メイクも怖い印象にし、手には壊れたスタンドライトを持たせることで破壊をイメージした。「砂漠化」は、頭の中で絵を想像することはできるが、それを形として表現するのに苦戦した。そのためモデル全体の色味と、荒れたヘアと長い衣装で砂漠を表現することで、よりイメージしやすくなった。また 所々に緑を残すことで、元々あった自然が段々と侵され、ヒビ割れていく様子を示した。「山火事」は裾まで伸びた赤黒いチュールと長くボリュームのある赤髪で、炎が立ち上る様子を表現した。また、すでに緑は完全に残っておらず、焼けこげた山肌を表すため、全身を黒でまとめ、肌にも炎や黒い影を入れた。このように山を破壊するモデル達は、破滅に追い込むような＜重い怖さ＞を共通してイメージしながら創作した。

「山」は善悪でステージを分けたり、それぞれ主張の強い個性のある作品に仕上げたため、同じ「山」チームとして、どこで統一感を出すかというところに苦戦したが、最終的にどのモデルにも枝や木の要素を入れることにし、チームとしての統一感を出した。自然はどんなに荒れた地でもめげずに美しい花を咲かせる。そのため、それぞれのモデルの堅固で本質に忠実な作品により、大昔からそこに存在し、人々を生かす「山」の不変さを印象付けた。

次に「海」を解説する。「海」のモデルは 5 体で、他のチームよりモデルを少なくした分、一体一体によりこだわりを持って制作した。それぞれのコンセプトに大きな意味を託し、ボリューム感を出して表現したことにより、大きく壮大な海に圧倒されるようなイメージをショーでも表現することができた。「海の揺らぎ」「熱帯魚」「珊瑚礁の白骨化」「マリンダスト」「オールブルー」という 5 体のモデルで、善悪の区別はつけつつも、それぞれが関わり合っていること、共存しているからこそ守っていきたいという想いが伝わるよう意識した。

「海」ではここまでの構成と異なり、美しいものから見せることで観客の心に強く印象付けたく、「海の揺らぎ」を初めに出した。「海の揺らぎ」は海の奥深く遠い所にあり、人間の手が届かない、青く澄み渡り静かに揺れ動く場所をイメージした。その次に出した「熱帯魚」も、美しい海で鮮やかに泳ぎ、人間が来るとそっと隠れてしまうような可愛らしい熱帯魚を、ヘアメイクと全身で表現した。

この 2 体で美しい「海」を印象付けた後、人間によって汚された海としての「珊瑚礁の白骨化」「マリンダスト」を同時に見せた。「珊瑚礁」のメイクは、珊瑚を見立てながらも泣いているように見せることで、色鮮やかだった珊瑚がだんだんと白くなり悲しんでいるように見せた。「マリンダスト」のモデルも、「山」でのゴミをテーマとした「不法投棄」と区別をつけるため、実際に海にあるゴミを集めて制作した。ゴミをヘアに絡ませることで、海の生物が人間のゴミに絡みつき、窒息して亡くなっている悲しい現状を表現した。

このように私たち人間の手で汚してきた海を見せ、考えさせた後に、理想の形とする「オールブルー」を登場させた。

冒頭で出た「海の揺らぎ」と「熱帯魚」は、人間が守っているから美しいのではなく、人間の手が届いていないから美しいのであった。「オールブルー」はそうではなく、人間が美しい海を守った先の「共存」であり、理想の形として表現している。そのため、色鮮やかにキラキラとし、大きなマントで海を支配するような神々しいイメージに作り上げた。

このように、「海」は、現実と理想をストーリーに載せることで、より考えさせるような作品に仕上げた。また、照明の当て方や音楽、モデルのゆったりとした動きにより、まるでステージが水の中であるかのように感じさせるような構成を意識した。

最後に「感情」だが、これは今までの自然と少し違い、人間自身のものであり、また、このショーで最も重要な題材でもあった。チーム名を「感情」ではなく「connect」にしたのも大きな意味がある。だんだんと大人になっていく上での感情の移り変わり、それぞれの感情の互いに及ぼしあう葛藤、人間界に突然現れた AI との関係、さまざまな所に繋がりがあり、またその繋がりは時に人の縁を切るものでもあったりする。その恐ろしさや儚さ、人の感情の大切さを一番に伝えたかった。

「感情」のステージは、明るく楽しい音楽から始まり、「喜び」「迷い」「怒り」「悲しみ」の感情たちが演出する。幼い頃の無邪気な楽しさ、愛され成長する「喜び」に始まり、すさまじい速さで成長し、多くの経験をする上での「迷い」、思春期の訪れや、さまざまな社会の理不尽に対する「怒り」、そして大人になる上で知る多くの「悲しみ」という、人としての成長の中にある「感情」は繋がり、意味を持つ。また、プラスの感情がだんだんとマイナスの感情に移り変わっていくという見せ方、それぞれの感情は、いつも

リンクしていて影響しあっている、という繋がりなど、この演出は多くの意味を担い、そして観客にも＜十人十色＞の意味を感じて、考えさせる。

他のチームのステージ上のポーズでは、作品を魅せるためのものがほとんどであったが、「感情」は、特にそれぞれの感情をしっかりと体現するポーズにし、観客にコンセプトをはっきりと伝えられるよう意識した。

ひととおり人間の感情を見せた後、「無」「侵食されつつある感情」「完全なる AI」の構成だが、「無」というのは感情がないということで、つまり、人としての最悪の姿というか、もはや人は感情を無くしたら人ではない。「無」というものを表現するのは、とても難しく、意味と概念を砕きながら作品を作り、ステージでも他には無い、何もポーズをしないという異例さで「無」をどうにか表現した。そして、半分人間の姿ではあるが、体がだんだんと機械のようになり、侵食されていくモデルが登場し、最後に、完全なる AI としての機械が登場する。AI がステージ上で「感情たち」を「無」へと変えていく間、「無」と「AI 化」のモデルが会場全体を歩き、AI が感情も、会場も支配した状態でステージは終了する。

「空」、「山」、「海」は、最後に美しい姿を見せて終わるのに対して、「感情」だけは、AI に乗っ取られた状態で閉幕する。その恐ろしさやバットエンドによって、観客に余韻を残すことで、「観客自身に考えさせる」という目的である「君たちはどう生きるか」に近づいたように思う。

3）バックステージ

ヘアショーではモデルの見せ方が最も大切ではあるが、より観客の心に響く作品を作るために欠かせない要素が、「照明、音響」である。「照明」は、モデルのイメージやコンセプトを強調させる。「音響」は、テーマごとのイメージを音に乗せて、会場を包み込む。観客に直接何かを伝えることはないが、心を動かすためのとても重要な要素なのだ。そのため、何度も編集、改善を重ね、チームメンバーが作り上げてきた作品の意味が最大限伝わるよう、試行錯誤し、完成させた。また、それぞれのチームの繋がりがなくては、ショーとして成り立たないし、かといってパターンが同じでもつまらないショーになってしまう。そのため、なんの意味を持ってどのモデルを出すのか、どのタイミングで曲を変えるのか、コンマ 1 秒までこだわり、いつ照明を落とすのかということにも注目し、見ていて飽きない、引き込まれるショーを意識して作り上げた。

会場左右のモニターに流す「始まりの映像」は、作り上げてきた過程を簡潔に見せ、これから始まるヘアショーに期待してもらい、観客の意識を惹きつけることを意図して制作した。そして、少しネタバラシをすることで、全く知らない状態から見るよりも、より関心を持ってもらいやすいよう仕掛けた。ショーが終わり、モデルと製作者の紹介をした後、ヘアショーに携わった学生全員を、映像に表示した紹介とともに登場させた。学生たちは、半年間という長い時間をかけ、青春を捧げ作り上げたショーに感極まり、涙する子も多くいた。それは学生の本気さや取り組みの素晴らしさを証明するものであり、観客の涙を誘うものであったと思う。

IV. 製作者の思い

ヘアショーは、青春を捧げて作り上げたものを仲間と共有し、見てくださった方に感動を与え、心を動かすことができるものだと思う。

アーティスティックでメッセージ性を伴う、高度な美容というものは、基本的に興味のある人や、その分野について意識の高い人にしか届かない、通じないものである。しかし、まだ学生である未熟な私たちが、時間をかけて、沢山悩んで、時には言い合いになって、熟成させて作り上げた作品ならば、より強い意味を作品に託すことができ、多くの人の心に届くものを作ることができると考えている。実際、美容には何ら関係のない職種の方々が、私たちのショーを見て感動し、様々な意見を持ち、感想を寄せてくれた。こうしたことからも、学生の持つ力は無限大であり、また美容の可能性も無限大であると感じている。

短大でのヘアショーは、ただ立派な作品を作ることが目的ではない。これまでの先輩方が築き上げてきたように、学生の成長の場となり、深い意味を持ち、学生にとっても観客とっても、心に何かを残すものであることが、ヘアショーの存在意義だと考える。そのことを先輩方の活動と、熱い思いと、やり切った後の涙から、学ばせていただいた。そのため後輩にも、ぜひこの素晴らしい伝統と短大としての誇りを繋いでいって欲しいと願っている。何か形に残るものでも残らなくても、挑戦することはとても大切で、その経験が大人になった自分を強く支え続けてくれるであろう。その一つのツールとして、この先もヘアショーの文化が継続し、繁栄したならば、うれしいことである。

V.　考察

今年のヘアショーは、学生たちの技術がとても高く、ポテンシャルを持った学生が多くいたため、作品のクオリティが最初から高かった。しかし、それぞれの作品が確立しすぎていて、チーム内での統一感を出すことに苦戦するなど、技術者のポテンシャルと意識の違いによるクオリティの差を埋めることが非常に難しかった。観客は美容に携わっていない方も多くいるので、間接的な表現すぎたり、チームでバラバラでは、メッセージを伝える以前に作品の意味すら伝わらなくなってしまう。また、作品のクオリティに差があると、そこに意識が向いてしまい、メッセージに集中できなくなってしまう。

そのため、学生たちには、表現したい作品を作ってもらいながら、私たちプロデューサーやリーダーが軌道修正し、全体をまとめていく必要があった。多くの考えや個性を持った学生たちが一つの作品をまとめあげるというのはとても大変で、ぶつかることやうまく想いが伝わらないこともあった。しかしその葛藤と結託が、伝えたかったこと、気づいて欲しかった想いをより拡大して作品に乗せることで、観客に伝わったのではないだろうか。

昨今の世の中では、人と本気でぶつかりあう環境が減ってきているように感じている。ショーの中での「感情」のステージもそうだが、AI の普及により物事がすさまじいスピードで流れ、変化し、若干ピリついた空気が流れている。ルールやマナーが多すぎて、正論が正解となる冷たい世界が存在する。その中でも、人にあるのはいつでも感情であり、人情である。大学というある程度大人になった「人」が集まり、個性を認め合う環境の中で、一つのものを作り合う上での個性のぶつかり合いは、「人」として大きく成長し、「人」の温かさを育むものである。こうしたことから、教育の場面でのヘアショーは、多くの成長を担う重要な活動であると認識している。そのため冒頭で述べた通り、専門学校との違いを意識し、ディプロマポリシーの中でも特に〈課題解決能力〉〈多様な価値観や考え方を理解し、受け入れる能力〉といった教養に関する能力を高めることを大切に取り組んだ。このヘアショーの取り組みを通して、短大生として得た能力や現代社会の本当の課題と向き合うこと、そしてその課題を伝えることの難しさを理解し、大きく成長する活動になったと考察する。この学びを糧とし、社会で活躍してほしいと期待している。

利益相反の有無

なし

参考文献

1）　阿部高広、山本恵子、石川文子著　コロナ禍でのヘアショーと教員のかかわり方の検討-美容動画プロジェクト-「山野研究紀要」30 号 2022 p33-38
https://www.yamano.ac.jp/news/detail.php?p=1718
（2025 年 3 月 15 日）

2）　山野美容芸術短期大学ホームページ，学校法人及び短期大学の沿革，https://www.yamano.ac.jp/
「山野美容芸術短期大学 自己点検・評価 報告書 令和 5 年度」
https://www.yamano.ac.jp/outline/check/files/jikoten/r5_jikotenken_hyouka.pdf （2025 年 3 月 15 日）

3）　廣田千明，寺田裕樹，渡邉貫治，小宮山崇夫，橋浦康一郎，中村真輔，伊東嗣功，境英一，伊藤一志(2020).「持続可能な地域貢献活動をめざして：ミニミニ科学教室，10 年目を迎えるにあたって」,秋田県立大学ウェブジャーナル A（地域貢献部門）7 1-9

4）　MASHU ブログ,『ヘアショー』ってなんぞや！？
https://mashu.jp/article/573　(2025 年 3 月 15 日)
5）　SALON CHART ブログ, 美容師が主役の舞台「ヘアショー」テーマ例や楽しみ方を解説, https://www.salon-chart.com/8360
(2025 年 3 月 15 日)
6）　美容室 Ash ホームページ !!ヘアショーに参戦!!
https://ash-hair.com/column/detail/1295/ (2025 年 3 月 15 日)
7）　HOT PEPPER Beauty Academy ホームページ,
アシスタントによるヘアショー「JUNIOR TOKYO」開催！
https://hba.beauty.hotpepper.jp/check/13421/
(2025 年 3 月 15 日)

（英文タイトル）

Hair Show 2024 “How Do You Live?

” Practice and Student Growth　【仮】

『君たちはどう生きるか』
山野美容芸術短期大学 学苑祭 ヘアショー
記録アルバム　（148mm×148mm）